Role Model 09

確固たる目的とアイデンティティ、そして気力と体力

指宿睦子 熊本大学大学院生命科学研究部助教

外科医、そして研究者というアイデンティティ

私は“研究者”というよりも“医師”とくに“外科医”としての自覚が強いかもしれません。医師になってしばらくは何でも切れる（？）外科医を目指して修行しました。その経験を活かしつつ、今は主に乳がんの治療を行っています。一方で、大学ならではとも言える先進的医療（治験や臨床試験）や、乳がんの治療効果や予後を規定する因子の研究も並行して行っています。あ、やっぱり“研究者”でもありますね（笑）。

研究の面で、これからもっと深めていきたいのが、“トランスレーショナルリサーチ”。患者さんから頂いたがんの組織・血液の遺伝子やタンパク発現を調べ、細胞や動物を使った基礎実験の結果と照らし合わせながらより役立つマーカーを探し出していく仕事です。この分野に興味を持ったのは、大学院で患者さんの情報のデータベース化、組織の採取と管理、発現解析研究の立ち上げに関わったことが大きいと思います。海外の研究室で知見を深めるのもいいかなと思っています。

大学は“評価の機会”が与えられる場所

臨床医は当直を含め事実上24時間以上働くことを求められます。独身の頃は普通に実現できていましたが、子育てをするようになると物理的に不可能でした。そのことに関する葛藤と、仲間に迷惑をかけているという劣等感とが常にあります。ただ、大学では医師としての診療活動の他にも研究・教育の面が大きく評価されます。では逆にこれを利点にしようかな、と。**診療・研究・教育・子育ての４本柱**を断片的にこなすにも、相当の体力と気力が必要。常に5年後くらいの自分と仕事・家族の状況を想像しながら、あえて完璧は目指さず優先順位をつけてコツコツやっていく、という感じです。

仕事でも家庭でも、いろいろな面で私を理解し支えてくれる夫の存在はとても大きいです。仕事で疲れていても、家族で一緒になって存分に騒ぐとリフレッシュしますね。

４本の柱から得た多面的な視点で、“できる”そして“役に立つ”人材になれるよう、これからもがんばります！

乳腺・内分泌外科の懇親会。ママさんは子ども連れで出席OK!

家族旅行の思い出 with オパール掘りのおじさん人形 @Cairns

Mutsuko IBUSUKI

医師・大学教員 » 博士課程 » 乳腺内分泌外科 → 消化器外科 » 外科医師 » 医学部医学科

女性として期待されている分野の専門医になる

One day

6:00	起床
7:00	子どもたちのお世話
8:45	就業　月火：研究・学生指導 木：外来　金：手術
17:30	終業
18:40	帰宅 食事や子どもたちのお世話
23:00	就寝

◎リフレッシュ方法・落ち着く場所
無動・無思考
家呑み
森林浴や温泉

profile

いぶすきむつこ／熊本大学医学部医学科卒業。研修医を経て、2001年から鹿児島県出水市立病院外科で消化器外科医員として研鑽を積み、2005年より熊本大学医学部附属病院乳腺・内分泌外科医員として勤務。2008年熊本大学生命科学研究部博士課程修了後、2011年5月から現職。医学博士・日本外科学会専門医・日本乳癌学会専門医。6歳と4歳の2児の母。

アンケートより

Q.「女性」研究者より「男性」研究者の方が能力的に優れていると思いますか？

思う 5%　思わない 25%　能力と性別は無関係 70%